

優良農家の紹介

鉢花大型経営における雇用の工夫事例

氷上郡内には県下でも有数の大規模な鉢花・花壇用苗物生産者が多く、4戸で雇用による経営が行われている。郡鉢物協議会長である氷上町上新庄の長尾安博氏（48歳）は、雇用6名を併せた8名で、施設8000㎡、露地60aに拡大し、年間110万ポット出荷の大規模経営を行っている。

1 経営者としてのスタンス

生産した物を市場に持って行くといった従来の農業経営でなく、契約出荷を念頭に営業販売（契約40%、市場30%、直売30%）に力点を置いている。

長尾氏本人の担当は、経営全体の総括、商品開発、経理、販売といった企画・営業が主であり、奥さんが栽培管理及び雇用者6名の管理といった生産部門を主に担当している。

2 契約出荷を円滑にするための環境制御の徹底

契約出荷においては契約数量を期日に納品することが必須であるため、センサー（外気温、室内温度、日射、風速）からの情報で、暖房、天窓、サイド換気、内張カーテンを自動制御できる施設を導入し、また、育苗専用ハウスも装備する等徹底した生産管理を行い、90%以上の商品化率を実現させている。

また、肥培管理についても、自家配合培養土に液肥混合機を組み合わせることで、肥効を安定させるとともに微妙なコントロールを実現している。

とは言え、工業的な考え方ではなく、あくまで花は消費者に和みを与える物であるから、消費者の手に渡ってから十分楽しんでもらえるよう、ひ弱にならないよう適度にストレスを与えたり、順化をする等して愛情を持って花づくりに取り組んでいる。

3 雇用に対する配慮

作業時間9時間の内、昼食休憩1時間以外に2回の休憩時間（30～40分）を設けて談話を楽しむようにしている（休憩時間も給料支給）他、勤務時間等についても雇用者の希望を優先するなどゆとりある経営を心がけている。

雇用者は一緒に仕事をする仲間という観点から、露地にまでベンチを設置し、灌水は自動化する等、身体に負担がかからないよう作業環境の整備を十分に行っている。各種資材についてもできるだけ軽量化を図ると共に、ポットイングマシーン、アルミ専用台車を初め、機械の導入を積極的に進めている。

更に、近年、ラベル売り等で施設の回転を上げている事例の多い中、働く人も植物もしんどい真夏は作付けを減らし、基幹作物であるサフィニア鉢の出荷が終わる7月初めから8月一杯までの期間の作業は午前中のみとしている。また、年2回の親睦旅行の他、食事会も実施している。

池田隆直（柏原普及センター）



自動化された育苗温室（長尾氏農園）

ひょうごの農林水産技術 No.126

平成15年3月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400

1部250円（申込先・県立農林水産技術総合センター）